

第104回全国高校サッカー選手権大会 千葉県大会 総評

〔はじめに〕

今大会1次トーナメントには64チームが出場し、令和7年6月14日から22日に行われ、2次トーナメントは1次トーナメントから勝ち上がった17チームを含めた68チームによって9月6日から15日、いずれも7、8月の猛暑での開催を避けて行われた。決勝トーナメントは2次トーナメントから勝ち上がった19チームを含めた40チームによって、10月11、12、13日に1回戦、18、19日に2回戦、25、26日に3回戦、11月1日（土）に準々決勝が行われ、ベスト4（流経大柏、市立船橋、専修大松戸、中央学院）が決定した。11月9日（日）に準決勝が柏の葉公園総合競技場、16日（日）にフクダ電子アリーナにて決勝が行われ、優勝は流通経済大学付属柏高校、準優勝は専修大松戸高校という結果になった。

プレミア EAST 所属の流経大柏と市立船橋の2チームは準々決勝から、高校総体県予選で準優勝のプリンス関東所属の日体大柏は決勝トーナメント3回戦からの出場となった。準々決勝は千葉県リーグ2部以上のチームとなったが、1～3回戦はリーグの所属カテゴリーの差は感じられない拮抗したゲームが多く展開された。

〔大会の傾向〕

全国高校総体でベスト4に進出した流経大柏、プレミア EAST 所属の市立船橋を筆頭に、関東大会出場を果たした習志野と八千代、高校総体県予選でベスト4進出を果たした専修大松戸、惜しくも決勝で流経大柏に敗れたプリンス関東2部所属の日体大柏、千葉県1部リーグで好調を維持している中央学院など特徴的でハイレベルなチームが多く、今大会も注目を集めた。日体大柏や八千代、中央学院といったボールを保持しながら攻撃を組み立ていくスタイルのチームと比較的縦に速くゴールに迫っていくチームとでは後者の方が多い傾向にあった。その中でも準々決勝において流経大柏の個々の高いフィジカルレベルと運動性の高いプレッシングに対して臆することなくボールと人を動かしながらゴールに迫り続けた八千代高校は惜しくも2－3で敗れたが、今後の期待が高まるインパクトを残した。

多くのチームが日常から守備の意識を高めてゲームに臨むチームが多いからか、またはトーナメントという性質上、リスクを回避しての判断が増えるからか、攻撃側はボールを保持し、立ち位置を変化させながらボールを進めていくことは容易ではなかった。そのため守備組織を整えて連動したプレッシングによって意図的にボールを奪うというよりも、ルーズボールへの反応や球際の強さなど、個々の力がゲームの展開を左右しているシーンが多い印象を持った。

また、大会全体を通してDFラインの背後へのボールや、サイド攻撃やクロスから得点が生まれるシーンが多くあった。改めて、日常からグループやチームとしてオーガナイズされた

トレーニングを積み重ねていくことで戦術理解を高めることと同時に、的確な予測のもと、スペースでの局面の力を高めていくこと（アスリート能力）も今後の課題であると感じた。セットプレー時のテクニカルエリアでの様子からも近年はコーチングスタッフがセットプレーを担当することが増えていることもあり、自チームと相手チームの特徴を分析したうえで、時間をかけて緻密にトレーニングに取り組んでいることが伺える。準決勝以降の3試合の14得点のうち、6得点がロングスローを含めたセットプレーの流れからであった。相手を分析し、お互いが相手のストロングポイントを発揮させないゲームが多いことからセットプレーというのは勝敗を分ける大きなポイントだったといえる。

また、優勝した流経大柏は準々決勝から全て1点差のゲームを勝ち上がっての優勝となった。

拮抗したゲームが多く、千葉県の上峰に立つことは容易ではなく、まさに全国トップレベルの闘いがこの千葉県大会で繰り広げられた。

2年連続9回目の全国大会出場を決めた流経大柏には、千葉県代表としての誇りをもって素晴らしいゲームを期待したい。

〔最後に〕

今大会の計画準備、そして1次トーナメントから会場での運営、補助役員や応援等、様々な場面において多くの方々の力で今大会を盛り上げ、無事に終えることができた。

勝ち上がっていくチームや選手が注目されがちではあるが、高校生がサッカーを通して様々な経験をし、多くのことを感じ、成長していくことに意義があることを忘れてはならない。応援や会場でのマナーに関しても当事者意識を持ち、指導者は勿論のこと、選手や観客の皆様を含めた高校サッカーに関わる全ての人たちが、より良い大会にするべく力を合わせていきたいと思う。

大会の運営に携わっていただいた全ての方々に感謝の意を表すとともに、流通経済大学付属柏の昨年度を上回る全国優勝を期待し、第104回全国高校サッカー選手権大会千葉県大会の総評とさせていただきます。

東京学館浦安高等学校 大木 壘